

起業街道・関西プロジェクト ～うめきた2期区域におけるイノベーション創出に向けて～

関西におけるスタートアップの成長と活躍、そしてスタートアップと会員企業との協業によるさらなるイノベーションの創出をめざし、当会では2020年7月から「起業街道・関西プロジェクト」を推進しており、関西各地のさまざまな機関との連携を強化し、活動の幅を広げてきた。

2024年度は、9月に先行まちびらきが予定されている、うめきた2期区域「グラングリーン大阪」を新たな舞台に、これまでの活動の成果を発揮していく一年となる。今号では、直近の具体的な取り組みを紹介する。

起業街道・関西プロジェクトとは

「起業街道・関西プロジェクト」は、大企業とスタートアップの接点拡大をはかる「交流」、イノベーションが創出される枠組みの構築をはかる「創造」、そして制度活用の広域化などをめざす「広域連携」を事業の3本柱としている。これらの取り組みにより、関西広域におけるベンチャー・エコシステムを形成することをめざして、現在事業を進めている。

交流：スタートアップとの接点拡大

■ DXオープンイノベーションフォーラム2023

DX推進が企業や地域にとって喫緊の課題となるなか、DXに関する優れた技術や研究シーズを有する関西のスタートアップと当会会員企業との「出会いの場」を提供するため、関西イノベーションイニシアティブ(KSII)との共催により「DXオープンイノベーションフォーラム2023」を昨年8月に開催した。フォーラムでは、製造業・インフラ事業の課題改善やビジネスモデル変革に役立つ技術等を持つスタートアップなど計10社がプレゼンテーションを行った。フォーラムに続いて実施した名刺交換会、個別相談会では30件以上の面談が行われるなど、参加者同士が活発に交流する場となった。



DXオープンイノベーションフォーラム2023(2023年8月)

■ 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)とのイベント

当会では“国内はもとより、世界からスタートアップが集まる関西をめざす”を目標に掲げており、ATR

とともに2021年から合同でイベントを開催している。本年3月開催のオンラインイベントでは、「海外から関西をめざすスタートアップの期待するもの」をテーマにパネルディスカッション等を実施し、日本・イスラエル・リトアニア・イタリアのスタートアップが自社のサービスを紹介した。

創造：スタートアップと企業の連携による創造をさまざまな角度から後押し

■ 関西VC・CVC交流会

昨今相次いで設立されているコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)にも注目し、ベンチャーへの投資を加速する取り組みも進めている。その一つが「関西VC・CVC交流会」である。関西でのCVC投資における課題を解決し、首都圏等から新たな投資を呼び込む環境を作ることをめざした事業で、大阪府等とともに2022年から開催している。昨年11月に開催した第3回会合には、首都圏で活躍するキャピタリストや成功事例を持つ企業のCVC担当者を招き、VC・CVCを通じた資金調達環境の改善やスタートアップ支援の推進等について意見交換を行った。さらに大阪・関西で注目を集めるスタートアップ6社が事業のプレゼンテーションを行い、その後VC・CVC担当者らと交流を深めた。



第3回関西VC・CVC交流会(2023年11月)

■ 大学発スタートアップサポーターズミーティング

大学発スタートアップと企業との接点拡大およびイノベーション創出に資する活動として、スタート

アップと、事業開発経験や投資経験のある企業担当者(サポーターズ)とが今後の事業の方向性や解決策について議論を行う「大学発スタートアップサポーターズミーティング」にも取り組んでいる。本年2月には第3回会合を開催した。参加者からは「さまざまな事業分野の担当者から直接フィードバックを聞ける場としても、仮説の検証の場としても有効」と高い評価を得ている。関西の大企業と大学発スタートアップがつながりを持てる貴重な場ともなっている。



第3回大学発スタートアップサポーターズミーティング(2024年2月)

■ うめきた^{きょうごう}響合の場

「グラングリーン大阪」でのイノベーション創出に向けて、当会では、企業のオープンイノベーション部門の窓口が縁日の出店のように集い、スタートアップ・大学の研究者等と出会い、新たな価値を生み出していく「場」を「グラングリーン大阪」に構築することをめざしている。そのトライアル事業として、うめきた未来イノベーション機構(U-FINO)とともに「うめきた響合の場」を開催しており、昨年12月には「フードテック」をテーマに4回目のイベントを開催した。イベントには、インフラ・運輸・飲食業等の事業会社や大学のほか、「あっちこっち関西・イノベーションプロジェクト」で当会と連携協定を締結している京都府舞鶴市、兵庫県丹波県民局(シリ丹バレー推進協議会)などが参加した。特設ホームページの面談募集には、スタートアップ等計25社からの申し込みがあり、延べ71件の個別面談が行われた。参加者からは「新たなコネクション作りや、新たなコラボレーションによるイノベーション創出に



第4回うめきた響合の場(2023年12月)

つながる有意義なイベントだった」といった声が聞かれた。

広域連携：京阪神連携の推進

政府が2020年に「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の一つに「京阪神コンソーシアム」を選定して以降、関西では産学官が参画する多数の取り組みが進められている。なかでも産学官の91機関で構成され、政府の公募事業に採択されたプロジェクトを推進しているKSIIや、関西の大学・産業界・金融界・自治体等の60以上の機関が参画し、スタートアップ・エコシステムの構築をめざすプラットフォーム「関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)」、さらにはバイオ関連の取り組みを進める「バイオコミュニティ関西(BiocK、委員長：澤田拓子 関経連副会長、ベンチャー・エコシステム委員長)」については、当会も活動に参画している。

オール関西でのエコシステムの構築をめざして

本年9月の「グラングリーン大阪」の先行まちびらき、「2025年大阪・関西万博」の開催と、関西は、今後のベンチャー・エコシステム構築およびイノベーション創出にとって重要な局面を迎える。

「グラングリーン大阪」には、イノベーション創出を担う「JAM BASE」が設けられる。この施設は、さまざまな人や企業、研究機関がまざりあって新しい世界を生み出すことをめざして設置されるもので、国内外からイノベティブな人材が集い、関西のエコシステムのハブとして発展することが期待される。

「大阪・関西万博」については、関西のスタートアップの魅力・価値を世界に伝える好機ととらえ、大々的に発信していく。万博会場内では、政府主催による、海外の関連プレーヤーを関西に呼び込むことを目的とするカンファレンス「Global Startup EXPO 2025」の開催も予定されている。こうした関西のエコシステム強化に資する重要なイベントについては、当会も関係機関と連携して取り組みを進めていく。

今後も、大企業とスタートアップとの協業やオープンイノベーションの推進に関係機関と連携・協力しながら取り組み、関西におけるベンチャー・エコシステムの定着とさらなる発展をめざしていく。

(産業部 望月太朗・宮田太・山下善寛)